

## (8) 近畿



近畿地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

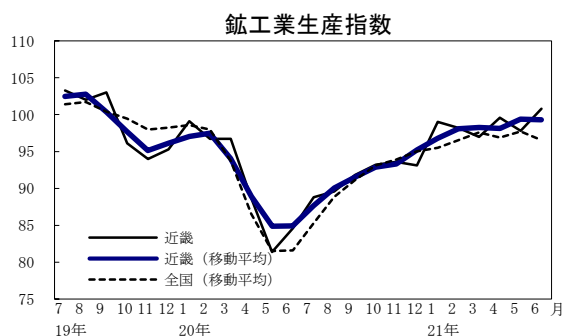
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和3年6月)	今回 (令和3年8月)	
個人消費	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	→

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

4－6月期の鉱工業生産は、生産用機械はショベル系掘削機が増加したこと、電気・情報通信機械はリチウムイオン蓄電池が増加したこと、化学は酸化エチレンが増加したこと等により前期比1.3%増となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。  
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
化学	12.4	0.2	2.0	▲ 4.1	▲ 2.0	7.7
電気・情報通信機械	11.7	12.5	2.3	4.8	▲ 3.2	▲ 0.2
汎用・業務用機械	10.4	▲ 1.3	0.6	11.4	▲ 14.8	7.3
生産用機械	10.1	11.8	11.6	13.7	3.4	▲ 7.4
輸送機械	8.7	▲ 5.2	1.4	▲ 1.6	▲ 3.2	5.3
鉱工業	100.0	5.1	1.3	2.7	▲ 1.8	3.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4-6月期、6月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

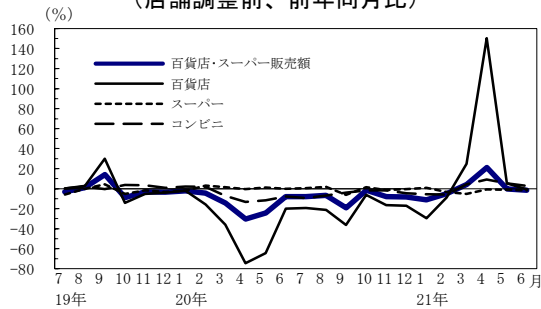
### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比0.7%減となった。月別にみると、4月は前月比0.7%減、5月は同2.6%減、6月は同3.3%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比5.5%増(前々年同期比16.5%減)となった。月別にみると、4月は前年同月比21.1%増、5月は同0.3%減、6月は同1.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年4-6月	2021年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	▲0.7	▲0.7	▲2.6	3.3
百貨店・スーパー(*2)	5.5	21.1	▲0.3	▲1.5
百貨店(*3)	27.9	150.4	5.4	▲0.9
スーパー(*3)	▲1.2	▲0.7	▲1.2	▲1.8
コンビニ(*3)	5.6	9.1	5.3	2.6
乗用車(*4)	28.5	31.7	55.2	9.5
(季節調整値)(*4)	▲2.2	4.8	▲8.3	▲1.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

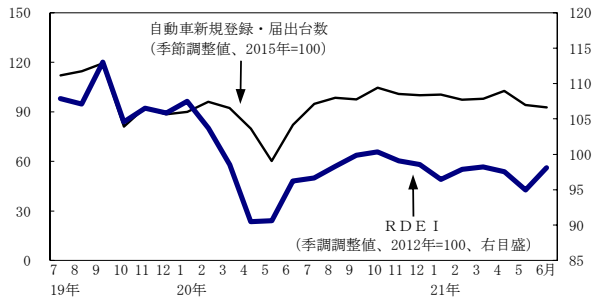
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福

井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)%)

RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移

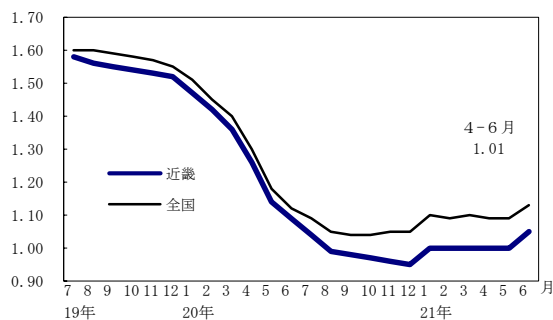


## 3. 雇用情勢

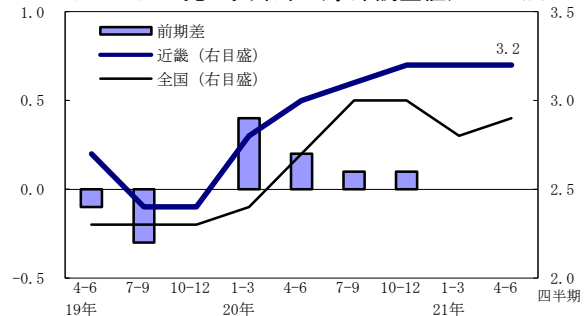
雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年7月調査) 景気判断理由の概要

8. 近畿

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・レストランに関しては、アルコール類の提供ができるようになったほか、4連休の影響もあり、にぎわいを取り戻しつつある。一方、宿泊は相変わらず直近の予約のみで、様子見の状態が続いている。また、婚礼も少人数での挙式が続いている(都市型ホテル)。
			・現在もコロナ禍が続いているが、ワクチン接種が増え、以前に比べて自由に活動する人が増えている。また、前年よりも水着などのリゾート関連の動きが活発である(スーパー)。
	企業 動向 関連		・長引くコロナ禍の影響で、一般客の消費意欲の低下がみられるほか、半導体不足による商品の欠品が長引き、販売量が減少している(家電量販店)。
			・7月の4連休は人出が多く、飲食店にも客が流れていたが、月全体で見ると売上はまだ厳しい。全体としては、余り変わらない様子である(食品品製造業)。
	雇用 関連		・来客数が少なくなっているため、配達件数が減っている(輸送業)。 ・ここへきて例年並みの販売額に戻ってきている(化学工業)。
その他の特徴 コメント		・新規求人は底堅く推移しており、一部の電気機械や生産機械、ハードウェア関連などでは求人が改善傾向にある。製造業の業況が改善すれば、製造業派遣や貨物輸送などの求人が改善される。一方、飲食業ではフルタイム求人がほとんどみられず、宿泊業なども低迷している(職業安定所)。 ・ワクチン接種や、東京オリンピックの開催を受けて、世の中の雰囲気は上向いていると感じる。それに伴い、人や企業の動きも増えてきている(新聞社[求人広告])。 : 緊急事態宣言の解除により店舗の営業が再開となるなど、売上は伸びている(一般小売店[鮮魚])。 : 以前と比べて少しずつ周りの変化を感じる時もあるが、まだまだ以前の状況には戻っていない。観光目的か出張かは分からないが、スーツケースを引きながら来店する客は増えている。以前は皆無であったため、その点では変化を感じる(コンビニ)。	
先行き	家計 動向 関連		・東京オリンピックが始まり、人々の気持ちの緩みか、来場者数が少し増えている。ただし、東京オリンピックが終わった後の状況がみえないため、基本的には今の状況から変化はないと予想される(観光名所)。
			・秋にはワクチン接種もかなり進む。旅行者などが増えれば、それに伴って関連商材の売上も上向きになると期待している(百貨店)。 ・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあり、飲食業への販売制限が更に厳しくなる。ワクチンの接種が進み、感染者数に変化が出るまでは、厳しさが増すと予想される(一般レストラン)。
	企業 動向 関連		・大型搬送設備の引き合いや問合せが増えないため、売上や利益の増加が見込めない(輸送用機械器具製造業)。
			・来年以降の設備投資計画の延期や、変更の動きが増えていると感じる(建設業)。
	雇用 関連		・求人数の推移は大きく変わらないと予想される。ただし、事務職の求人は年々減っているため、職種を限定して志望する学生は苦戦することになる。また、3か月後には来年度の採用を見据えた、冬のインターンシップの募集が始まる。当社のアンケート調査では、募集企業数は前年から微減となっているため、来年度の採用予定数が注目される(民間職業紹介機関)。
その他の特徴 コメント		・半導体の不足により、自動車の生産が遅れている。新車の購入に要する時間も長くなり、売上が伸びない(乗用車販売店)。 ×: 服を買わない状況に慣れてしまい、新しい服がなくても生きていけるという感覚をもち始めているため、今後も売れないと感じる(衣料品専門店)。	

(D I) 現状・先行き判断D Iの(近畿)推移(季節調整値)

